



えび〜くるの現状について

公明党 戸澤 幸雄

問 デマンド型交通高齢者等外出支援事業えび〜くるの現状について伺います。

答（市長）…令和6年6月の実証運行開始から2年がたとうとしており、今年の5月までに延べ2万7千人以上の方にご利用いただいております。この間に利用状況の確認やアンケート調査を実施し、利用対象者の拡大など利便性向上を図りながら運行期間を延長してきたところです。また、多くの方から好評をいただいている一方で、一部の時間帯で予約が取りにくい状況が見えてきていることから、今年6月から車両台数の増車やワゴン車両の導入などを行ったところです。今後は、本格運行に向けた最終的な検証を行ってまいります。

問 運転免許証や車両を持っている方で、今後、例えば体の具合で運転を迷う方もいると思いますが、対象者についてどのような考えがあるか伺います。

答（保健福祉部長）…利用条件の定義は、市内在住で一定のフレイル状態にある高齢者のほか、障がい者、妊婦、未就学児連れの親のうち、自ら乗降できる方と整理しています。令和6年の事業開始当初には、運転免許証をお持ちでないことも利用の条件としており、持っている方は対象外としていましたが、その後、身分証明書代わりに所持されている方や、免許証は持っているが運転できないという方また、車は持っているでも通勤などに使われていて実際は家にならう方もいられるということから、これらの方についても対象にできるように条件を緩和しているところです。

その他の質問

- ・障がいの者の就労について
- ・空き家・空地の対策について



実証運行中のえび〜くる



LGBTQに関する

教育行政について
無党派 さの るみ

問 私は差別やいじめを容認する立場ではありません。その上で、LGBTQやジェンダー、多様性を巡っては国内外でさまざまな議論が続いています。発達途上にある子どもたちへの教育は慎重であるべきと考えますが、教育委員会はこうした議論をどのように認識しているのか。また、本市独自の視点で教育内容を検証する考えはあるのか伺います。

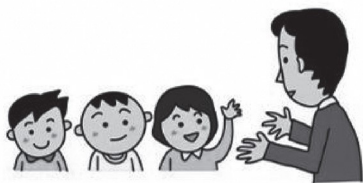
答（教育長）…国の方針とかは関係なく、海老名の子どもたちが抱える生きづらさを解消するために教育行政をやっています。LGBTQも多様な子どもたちの特性の中の一つです。そのことで生きづらさを感じていたり、学校でつらい思いをしている子どもがいたら、それを支援することが我々の役目だと思っています。

問 教育委員会は多角的に考えると答弁されましたが、多角的とはさまざまな意見や議論に触れ、自ら考えることだと考えます。本市の教育は、理解を深めること、それともさまざまな立場から考えること、どちらを目指しているのか伺います。

答（教育長）…外的な多角的なものを全部取り込まないと教育が成り立たないわけではありません。子どもたち自身が自分たちで勉強した知識の中で多角的な見方をします。昔のように、一方的にこれが正しいという教え方はしていません。自分たちで調べて情報を得て、さまざまな知識を習得し、今ある子どもたちの力で主体的に問題解決します。子どもたちが主体的に学習し、自分の力を身につけられるよう保障してまいります。

その他の質問

- ・子どもの安全確保と教育の根本について



工事の発注について

政進会 森下 賢人

問 市が行う道路や下水道、公園などのインフラ整備は、快適な市民生活を支えるほか、工事を行う市内企業の育成はもとより下請け業者、資材の納入業者などに影響が及ぶことで、地域経済の発展に果たす役割も期待できます。多くの市内業者は地域貢献や社会的責任の観点から、意欲的に市の事業や施策に参画しています。それを的確に評価することで業者の意欲が高まり、技術力の向上や安全・安心な地域社会の構築など相乗的な効果が見込まれるのではないのでしょうか。現在の入札制度の中で、市に貢献している業者に対する優遇措置について伺います。

答（市長）…契約には公平公正、透明性のもとより価格競争による経済性の確保が求められる一方、市内業者の育成も重要な課題です。そこで総合評価方式などを行っています。

答（財務部次長）…事業者の技術力に加え、災害時の対応能力や消防関係の協力状況など地域への貢献度を評価項目にする総合評価方式による入札や、試行として、地域に貢献している事業者が適正に評価されるように入札の発注条件を工夫するインセンティブ発注を実施しています。

問 国は約50年ぶりに工事の少額随意契約の基準額を引き上げましたが、入札参加基準の見直しについて伺います。

答（財務部次長）…この制度改正や社会情勢などを踏まえ、市内業者のみが参加できる第1区分の設計上限額を土木一式工事では7千万円引き上げて2億円未満に、それ以外の工事では3千万円引き上げて9千万円未満にしました。

問 土木工事全体に占める市内業者の受注割合を伺います。

答（財務部次長）…平成30年度から昨年度までに発注した土木一式工事294件の約96%、281件を市内業者が受注し、市内経済活性化に寄与しているものと考えています。

